



20下建第 405 号
平成20年10月10日

国土交通省道路局長 殿

下條村長 伊藤喜平

今後の道路行政についての意見・提案について（提出）

平成20年9月19日付国道企第37号にて依頼の標記について
は、別紙のとおり提出します。

○現状

示されました中部圏広域地方計画プロジェクトにつきましては、特段意見等はありませんが、一極集中を見直し中部圏の特色を生かす国土計画を望むものであり、地域の持続的な発展には産業基盤の整備が不可欠であり、第一には道路ネットワーク整備が今いちばん望まれています。道路は産業のためだけでなく、生活や観光とも一体であり、文化や地域ブランドを発信する源となっています。

中部の地域振興は、今後ともものづくりが中心となると思いますが、立地を生かした多様な産業分野、技術開発が重要であり、そのためには、首都圏などよりまだ遅れている道路網などの社会資本の整備に引き続き努力する必要がある、関係する地域の人々自身への働きかけが大変重要となってきました。

○課題

道路特定財源につきては、あくまで目的どおり道路整備を中心に考えるべきであり、当飯田下伊那においても、現在進行中あるいは課題となっている各種の整備事業がめじろおしであり、中でもその第1あげられるのが三遠南信自動車道であり、まさしく飯伊地方と中京圏を結ぶ重要不可欠な道路として経済・文化の広域発展に期待するものです。また、下條村の当面する課題としては、国道151号粒良脇トンネルの改良が急務となっています。当路線は、下伊那南部地域と飯田地方及び飯伊地方と愛知県とを結ぶ重要路線であり、現在のトンネルの幅員では、大型車両同士の通行では片側待機を余儀なくされる等、交通渋滞に繋がることがしばしばあり早期の改良が急務であります。

このように道路網整備につきましては、地域の生命線とも言うべきものであり、地方再生・発展には今後の道路施策が大きな鍵を握っており、その扱いには特段の期待をかけているものです。